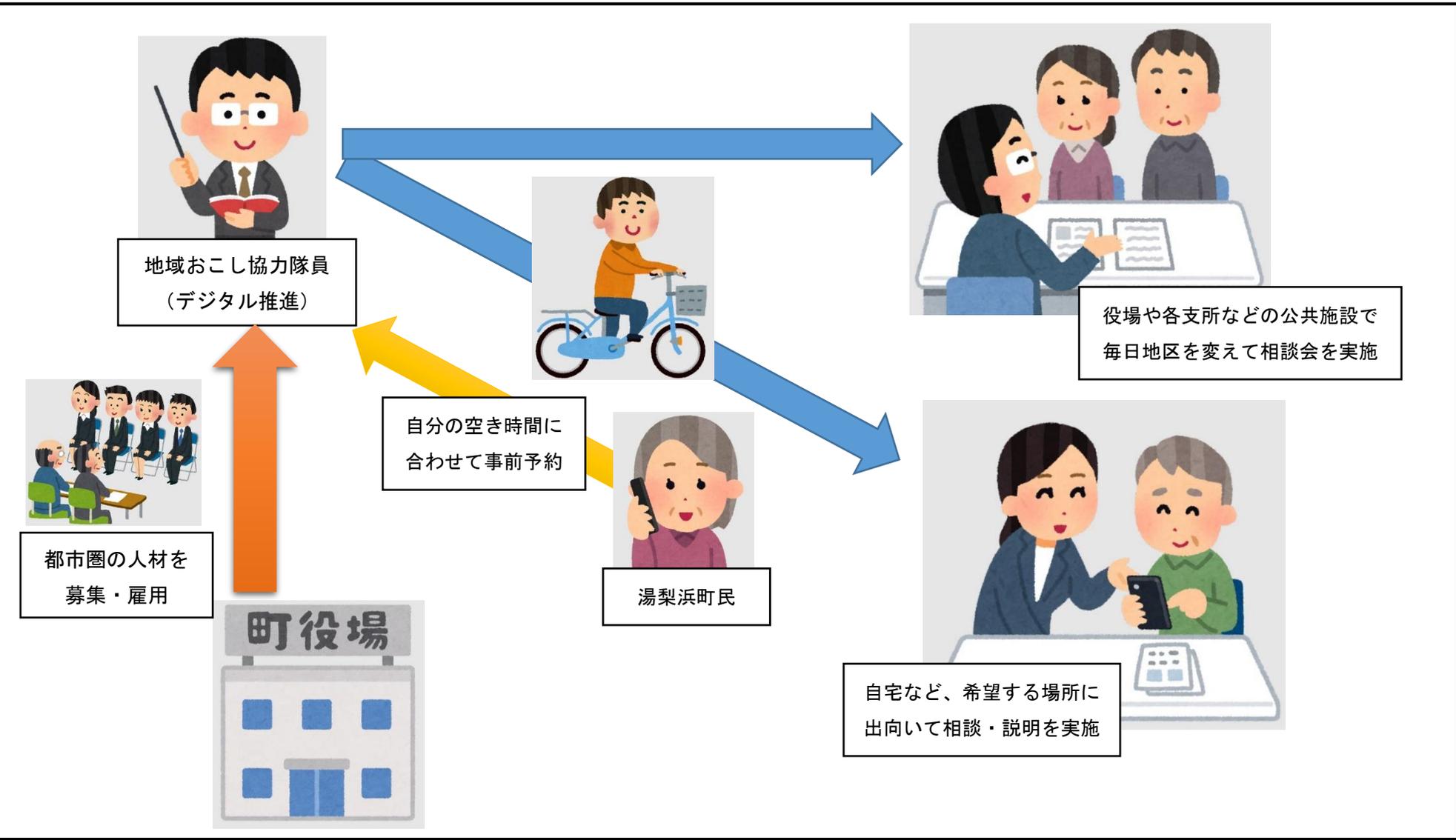


取組名称「誰ひとり取り残さない地域のデジタル化の取り組み」概要図（実装部門）



## 取組調書（実装部門）

地方公共団体名	湯梨浜町		
取組名称	誰ひとり取り残さない地域のデジタル化の取り組み		
連携自治体、企業、団体等	なし		
デジタルを活用した取組の概要 (デジタルを活用した取組の全体概要と解決する個別課題の具体的内容)	(種類) <small>(注)</small>	②	(左記が①の場合の分野)
	<p><b>【デジタルを活用した取組の全体概要】</b> 特に高齢者に多く見られる、スマートフォンやタブレットなどに慣れていない方に向けて相談会・講習会を開催。特にテーマを設けない個別相談や、自宅に出向いての訪問相談を重点的に実施。</p> <p><b>【実施に至る経緯・動機】</b> 以前から、公民館等に集まって実施する住民向け研修（例えばパソコン教室など）は行われていたが、以下の問題点があった。</p> <p>① 専門用語が多く 1～2回参加した程度では、なかなか理解が難しい ② 質問がしにくい（何が分からないのかが分からない人も多い） ③ 開催時間と自分の空き時間が合わず、参加したくてもできない ④ 運転免許の返納などで移動手段に乏しくなり、会場に行きづらい</p> <p>この10年で社会全体のデジタル化が急速に進み、こういった方々がその恩恵をほとんど受けられず、最後まで取り残されていく可能性が高く、町として、いかに対応していくかが課題としてあった。</p> <p><b>【解決する課題の具体的内容】</b> (1) スマホ説明会などの既存の仕組みを利用できない方への対処 単に受講機会を増やすだけでは、前項③・④に該当する人々のニーズには対応できず、根本的な解決にならない。 (2) デジタル知識を持つ人材の確保 スマホ教室を増やすなどでの民間委託だけでは限界があり、前項①・②の人に対応できない。町の直営事業を検討するにしても、豊富なデジタル知識を持った人材の確保。人口最少の鳥取県で、いかに確保していくか。 (3) コスト 講師の直接雇用・民間委託、いずれも何らかの費用負担が必要である。決して豊かではない地方自治体で、住民の理解を得ながら、いかに財源を確保するか。</p>		
デジタルを活用した取組による成果（成果がわかるデータ・数値）	令和3年12月～令和4年4月 <個別相談> 月曜～木曜（毎週）9：00～16：00（金曜は定休日） 85件 <訪問相談（個人宅）> いつでも可（1時間程度） 6件		

<p>本取組の特徴的な点やデジタルの活用において工夫した点</p>	<p>&lt;特徴的な点&gt;</p> <p>事業を検討するにあたり「民間事業者が行っているスマホ教室などで可能なことは、全てそちらにお任せし、町の強みを生かした取り組みをする」ことを主眼とした。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 分からないことは、理解できるまで何回でも聞ける</li> <li>② 他人もいると気後れするが、1対1なら気兼ねなく質問できる</li> <li>③ ほぼ毎日、開講していて、自分の空き時間に合わせて利用できる</li> <li>④ 「参加する」のではなく「来てくれる」</li> </ol> <p>前述の【実施に至る経緯・動機】に記載した課題4項目をクリアできれば、誰でも気軽に参加できるようになり、参加者の満足度は格段に上がり、「誰一人取り残さない社会」実現につながる。市町村が持つ「自治体の中で、最も住民に近い」および「地域の実情に合わせた柔軟な対応力と機動力」という2点を特に生かした取り組みである。</p> <p>&lt;工夫した点&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 地域おこし協力隊制度を活用し、デジタルに関する知識を持った民間人材を講師として採用。コストを抑え、都市圏から地方への移住も実現。</li> <li>② 講師の移動は、訪問先が遠距離や悪天候時などを除き、あまり公用車を使わず自転車で行う。目立つため住民の目に留まりやすくPRになることと、Co2削減量はわずかだが、脱炭素社会への取り組みの一環ともなる。</li> <li>③ 「参加費無料、1コマ1時間でテーマ不問、利用回数の制限なし、一人でもグループでも組織（例えば老人クラブや地区女性会など）でも利用可」とし質問や相談にはその場で全て対応、一人が何回でも利用可能にした。また町民であれば、希望日（土日・祝日可）に自宅にも行きますとしたことで、仕事や通院などで時間が取りにくい方でも利用しやすくした。</li> </ol>
<p>今後の展望</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 個別相談は予約が無い日がないくらい大人気で「周りの目を気にせず、質問できる」「店には行きづらいが役場は近いし、何を聞いてもいいし、何度聞いても大丈夫なのが嬉しい」という声を多数いただいており、今後も実施していく。</li> <li>② コロナ禍もあり、地域に出向いての訪問相談が月1回程度となっているが、今後も感染対策を万全にし、開催の増加に努める。</li> <li>③ 講師となった地域おこし協力隊員が、地域で培った人脈と技術を生かして鳥取県に定住し人口増につながるよう、町も協力しながら事業を進める。</li> </ol>

注： 以下の①または②のいずれかを選択

- ① デジタルの活用により、次の個別課題を実際に解決し、住民の暮らしの利便性と豊かさの向上や地域の産業振興につながっているもの。  
(・医療 ・教育 ・子育て ・物流 ・交通 ・農林水産業 ・中小企業 ・観光 ・防災)
- ② 高齢者、障がい者などデジタルに不慣れな人々がデジタル機器・サービスの利用方法を学ぶことができる環境づくりを既に進めるなど、あらゆる人がデジタル化の恩恵を享受できる、「誰一人取り残されない」社会の実現に寄与しているもの。